

2024年4月1日から2025年3月31日までにご寄付頂いた皆様方のお名前です。ありがとうございました。

- 前田 浩志 様
- 伊地知 修 様
- 上野 健太郎 様
- 今村 均 様
- 今村 真理 様
- 赤川 慎子 様
- 福川 みずほ 様
- 黒崎 沙安 様
- 福川 勉功 様
-
- 国分酒造株式会社 様
- (株)鹿児島銀行 様
- 鹿児島南ロータリークラブ 様
- トロール恐竜軍団 様
- 鹿児島相互信用金庫 様
- フコクしんらい生命保険株式会社 様
- 鹿児島教区仏教婦人会連盟 様



認定NPO法人発足に伴う変更事項
一般寄付・賛助会費は税控除の対象となりますので、領収書をお送り致します。

- 一般寄付
本法人の活動意義をご理解頂き、額の多寡は関係なくご寄附を賜りますようお願い致します。現金收受の方法は、事務局へお問い合わせ下さい。
- 個人賛助会員：年会費・・・・・・12,000円
- 法人賛助会員：年会費・・・・・・120,000円
- 募金箱
募金箱をお置きいただける店舗・企業・他を募集しております。ご賛同いただける方は、事務局までご連絡下さい。

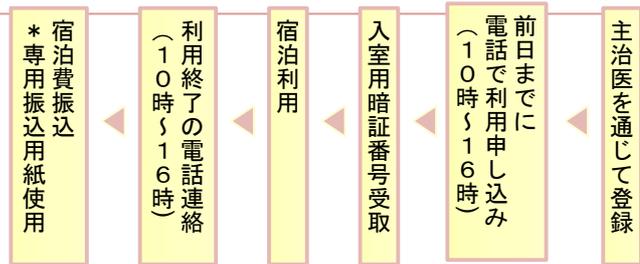
本法人の活動意義をご理解頂き、活動を支援いただける個人又は企業の入会をお願いしております。

入会申込書をホームページからダウンロードして事務局へお送り下さい。

「鹿児島ファミリーハウス」のご利用方法

鹿児島市内の病院に通院、入院する患児とご家族のための宿泊施設です。基本的な電化製品・台所用品・寝具・他のご用意があります。1,000円/1泊(宿泊人数は何人でもOK)でご利用できます。セルフサービス(清掃、ゴミの始末、その他)です。ボランティアの方達によって維持管理して頂いております。ご協力を。

ご利用の流れ



*(注)要/事前登録/ご希望の方は主治医にご相談下さい。

篤志家のご協力の下に鹿児島市鴨池2丁目(鴨池電停から徒歩1分)にあるビルの部屋(1K、1DK)をご提供頂き、平成19年7月からNPO法人子ども医療ネットワーク運営の鹿児島ファミリーハウスが誕生しました。

お問い合わせ/子ども医療ネットワーク事務局 TEL 099-275-5354

お問い合わせ先

認定NPO法人子ども医療ネットワーク本部

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学病院 小児診療センター小児科内
電話：099-275-5354

認定NPO法人子ども医療ネットワーク事務局
電話：099-275-5354 / FAX:099-265-7196

活動について・お約束

活動】離島やへき地など、小児医療の専門医が少ない地域に住んでいる子どもさんが、長期間の入院が必要な病気にかかった時に、ご家族を含めて安心して闘病できるように支援することを目的に設立されました。また、難病等にかかり遠方から来院なさるおこさんとそのご家族にも広く門戸を開き、病気に対する不安や疑問を軽減し、外泊あるいは通院にかかる負担を軽減するための事業を行います。すべてが皆様の共感とご協力のもとに運営されています。

お約束】皆様からお預かりした個人情報
・会員のご案内の発送以外の目的で使用することはありません。
・ご本人の同意なく第三者に開示・提供することはありません。

会員の方々と事務局を結ぶ……

こねっと通信

2025.spring.VOL.26



- ファミリーハウス
- 健康相談会
- 子ども救急箱
- その他

Save the Children
私達は離島・へき地の
難病児を支援します



すべての子どもに適切な小児医療と
快適な闘病生活を



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)
子ども医療ネットワーク



こども医療ネットワーク

● 理事長通信 ●

世界的な紛争が続く、サプライチェーンの不具合によって、薬剤の供給が不安定になって、臨床現場での混乱は少なくありません。さらに、米や食料を含む物価高が顕著で、闘病をとりまく環境は厳しくなる一方です。それでも、こどもの病気がなくなることはありません。むしろ支援の手が必要なご家庭は増えており、私たちの活動も、そうした現実に向き合いながら粛々と進めていかねければならないと感じております。そのような中、ありがたいことに、当法人に対しては個人、法人を問わず温かいご寄付をいただいております。当法人の活動を継続的に維持できております。コロナ禍を経て再開した対面での活動としては、離島での健康相談会を3地域で実施し、延べ50人以上の相談を受けました。

また、こどもの救急蘇生に関する実技講習会も、これまで3か所で開催し、医療従事者や保護者を中心に合計約100人の参加があり、好評を博しています。今後も、一つひとつの活動を着実に積み重ねながら、こどもたちとその家族のために尽力してまいります。

こども健康相談会in龍郷 報告書

令和6年6月8日(土) 場所：りゅうがく館
龍郷町のりゅうがく館で、未就学児の保護者を対象に、こども健康相談会を行いました。

「こども医療講演会」子どもの救急対応について30名が聴講しました。(鹿児島市立病院 榎木大祐医師)
「実技実習」3班に分かれて、心肺蘇生、AED使用の実習を行いました。(鹿児島市立病院 榎木大祐医師・県立鹿屋医療センター 山遠 剛医師・県立大島病院 下 園 翼医師)

「相談会」5名の小児科医が5組の家族からの相談に応じました。



(協力：龍郷町子ども子育て応援課 県立大島病院小児科)

ファミリーハウス「利用者ノート」の声

鹿児島市で長期入院する離島やき地の子どもとご家族のための宿泊施設「ファミリーハウス」。基本的な電化製品・台所用品・寝具等のご用意があります。人数問わず泊り方でご利用できます。部屋のノートには利用者の感謝の声が綴られています。

「子どもの手術のため1週間の利用の予定でしたがなかなか回復せず延長延長でした。しかし中間さんが快く理解して下さい。今日まで同じ部屋を使わせてもらいました。本当に本当に助かりました。感謝しかありません。お母さん達も大変ですが頑張ります。子どもも、子どもの回復が早く、元気になりますように。」

「離島在住のため1歳7か月だった上の子と離れて暮らすことが長くなり、頻回の往復も移動費・ホテル代がかなりかかってしまっていていましたが、ファミリーハウスさんを利用して頂くことが本当にありがたかったです。短いスパンで通院・入院しましたが、おかげ様で手術・術後合併症を乗り越え、血液データも改善してきてやっと通院・入院を繰り返さずに済みそうです。色々無理な相談にも乗っていただき、本当に助かりました。どうもありがとうございました。」

こども救急箱

《食中毒》 一予防3原則心がけて

こども医療ネットワーク会員
塩川 直宏
(種子島医療センター小児科)

2024年7月26日
南日本新聞掲載



食べることは、生きること。人を良くすると書いて「食」になります。私たちの周りには「食」にまつわる言葉がたくさんあり、生活と「食」を切り離すことは困難です。そんな「食」の安全を脅かす病気があります。食中毒です。

食中毒は、病原微生物や有害物質を含む飲食物を摂取した結果起こる健康被害です。一般的な症状として、吐き気、おう吐、腹痛、下痢が挙げられ、発熱を伴う場合もあります。細菌やウイルス、自然毒、化学物質、寄生虫によって起こり、発症までの期間や症状もさまざまです。症状が強ければ病院での治療が必要になることもあります。原因が何であったか

こども救急箱

《経口補水療法》 一脱水症でも吸収しやすく

こども医療ネットワーク会員
柳元 孝介
(ひだまりこどもクリニック院長)

2024年10月25日
南日本新聞掲載

経口補水療法は、経口補水を口から接種して行う治療です。子どもの軽度から中等度の脱水症に対して推奨されています。

口から飲んだ水分は、おなかの中でナトリウムや糖分と一緒に体内へ吸収されることとが分かっています。この仕組みを利用したもので、点滴に比べて負担が少ない治療法とされます。

経口補水液は、スポーツ飲料と同じように主に水分、ナトリウム、糖分で作られています。おなかの中で吸収されやすい濃度に調整されているのが特徴です。

脱水症は、体にとって重要な水分やナトリウム等のミネラルが失われた状態で、元気がなくなったり、顔面蒼白になったりします。ひどくなると意識障害やけいれんを起こすため、早めの対応が重要になります。

子どもが脱水症を引き起こす代表的な病気は、嘔吐下痢症です。嘔吐がみられる時でも、口に少し含む程度の水分であれば吐かずに飲める場合もあります。少量の経口補水液を5分おきに、繰り返し摂取することをお勧めします。下痢の時でも飲んだ水分がそのまま下痢になって出ていくわけではないので、繰り返し経口補水液を摂取することが必要です。

乳幼児は経口補水液の味に慣れておらず、飲んでくれないことがあります。どうしても接種できない時は、代わりにスポーツ飲料を試してみよう。それでも飲んでもくれない場合は、ナトリウム濃度は低くなりますが、リンゴジュースがいいかもしれません。水や麦茶よりはナトリウム濃度が高く、糖分も含まれています。

経口補水療法がうまくいかない時は念のため、病院を受診して点滴が必要かどうか判断してもらいましょう。

「こねっと通信」は、会員の方々と本部・事務局を結ぶコーナーです。ご意見・ご要望をドンドンお寄せ下さい。

《宛先》
〒890-8520
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学病院
小児診療センター小児科内
「こねっと通信」係

E-mail
kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)
こども医療ネットワーク
ホームページは随時更新中です
<https://kodomoiry.jp>

「こねっと通信」表面に掲載させて頂けるお子様の写真を募集しております。
下記住所にお送り頂くか、E-mail kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp まで
〒890-8520
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学病院 小児診療センター小児科内 「こねっと通信」係

※こども救急箱の記事は2006年4月から隔週で掲載されており、現在は月に1回掲載されております。